

かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ

所在地：南巨摩郡富士川町鯉沢771-2

TEL:0556-22-8154 FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。 <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

峡南地域教育推進連絡協議会 (地推協)



入月一巳会長

総会開催

7月4日(火)に、身延町総合文化会館にて、峡南地域教育推進連絡協議会(地推協)の総会が開催されました。入月一巳会長をはじめ、理事・委員など関係者32名が出席しました。6月に行われた理事会の審議に基づき、平成28年度の事業・決算報告、平成29年度の新役員や事業・予算計画等について、慎重な審議が行われ、承認されました。この地推協は、峡南地域の連携強化や学習機会の充実を図る中で、望ましい教育環境・社会環境づくりを目指すものです。詳細は、南部町教育委員会、峡南教育事務所までお問い合わせください。

◆平成29年度の主な地推協役員

会長 入月 一巳 氏 (南部町教育委員代表者)
 副会長 笠井 庸子 氏 (市川三郷町教育委員長)
 副会長 佐藤 紀征 氏 (市川三郷町教育長)
 副会長 若林 毅文 氏 (身延高等学校長)
 副会長 中澤 英史 氏 (増穂小学校PTA代表)

かけはし150号の誌面

p1 峡南地域教育推進連絡協議会総会
 海洋道中参加者決定
 p2~3 連載特集『峡南地域の食材』
 (一瀬桑・桑郷・食改員活動)
 p4 高校学園祭(市川高校・身延高校)

峡南地域人権講演会

地推協総会終了後、峡南地域人権講演会が開催されました。今年度は、NPO法人フ



ードバンク山梨理事長の米山けい子氏をお迎えし、「フードバンクから見える子どもの貧困～今私たちにできること～」と題して御講演をいただきました。講演内容は、**次号で詳しくお伝えします。**

八丈島・でっかい体験2017 フロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」参加者決定

6月4日(日)に「やまなし少年海洋道中峡南地区抽選会」が、中富総合会館で行われ、峡南地域では男子4名、女子3名の参加者が内定しました。県全体の定員は例年50名(男女各25名)のところ、応募総数は79名(男子52名、女子27名)、抽選倍率は男子2.08倍、女子1.08倍でした。

県の事業「海洋道中」は今年で30周年で、これまで、八丈島の方々の支援を受けて、貴重な体験の場を提供し続けてきました。今年は、8月1～9日(8泊9日)の日程です。洋上体験(船上での寝食、クルージング・外洋観察等)や自然体験(キャンプ生活・スノーケリング・野外炊事・サバイバル踏破・ピバーク等)、交流体験(八丈島の小中学生との交流)等、八丈島を満喫します。さらに、体験活動を通して、友情・連帯・自主の精神を育み、学校や地域のリーダーとしての資質を養います。



☆連載特集☆『峡南地域の食材』No.16

市川三郷町「桑茶」と食改さん



【市川三郷町の一瀬桑】

一瀬桑（いちのせくわ）は市川三郷町にある、クワ苗木原木で、山梨県指定の天然記念物です。明治31年（1898年）に西八代郡上野村川浦（現市川三郷町）の村長一瀬益吉（いちのせますきち）とその妻きくのが、品種名「鼠返し」という桑苗の中から良質な苗木を3株発見しました。益吉はこれを原苗とし、自らの桑園で増やし、近隣の村に配布したのです。この桑は葉が大きく厚く光沢があり、その質や収穫量、病虫害への耐性など、全てにおいて従来種より優れていたため、大正5年に桑園品評会で最優秀賞を受賞し、農林水産省によって品種「一瀬桑」と名付けられました。益吉は生涯に渡り、桑園改良と養蚕振興（製糸場益進館設立）に尽力しました。一瀬桑は日本全国に普及し、大正から昭和初期にかけて、日本の養蚕業発展に寄与しました。桑は200種以上もありますが、現在、日本全国で産出される桑の約5割が、そして、山梨県内では9割以上が「一瀬桑」です。

【桑郷（くわのさと）】

一瀬桑の生まれ故郷である市川三郷町から、「桑茶」を日本全国へ、そして世界へと広め、人々に元気を届けたいとの思いから、桑郷は2008年にスタートしました。その企業理念は「百年生きて、千年の未来を輝かせる志」。ハン・ソンミン氏・楠三貴夫妻は「桑の葉茶」で、新たな雇用を生み出し、市川三郷町山保地区の集落の活性化に奮闘しています。

ハン氏は韓国で5人兄弟の4男として生まれ、慢性結核で十数年も病床にあった母親を中学2年の時に失いました。長期の闘病中、母に代わり家事を全面的に担ってくれたのは父親だったそうです。朝方4時から朝食や弁当をつくり、8時に出勤する父の後ろ姿は忘れられないと言います。そんな父も、ハン氏が25歳の時に、病に倒れました。両親の死から「人がこの世に生まれ、健康に生きることの尊さ」を教えられたと語ります。

桑は生命力が強く、荒地地でも育ち、切ってもまた伸びます。健康機能性が高く、鉄分、カルシウム、亜鉛、GABA、ルチンなどを豊富に含みます。血糖値の上昇を抑制し、糖尿病・高血圧・肝機能等を改善する働きがあり、ハン氏夫妻は創業以来「桑茶を広めることで健康を届けたいという思い」を一層強くしてきました。現在までに4万6千本の桑を植え、年間生産量は15トンですが、今後も休耕地を借り入れて、いずれは10万本（3千坪）まで桑園を拡大する予定です。新たにポリフェノールが豊富な桑の実（ララベリー）も産出しています。夫妻の「健康への思い」は尽きません。



【市川三郷町の食改さん】

市川三郷町の食改さんこと「食生活改善推進員協議会」は、小林千代子会長を含め今年度92名で活動しています。今回は桑郷の「桑の葉パウダー」をたっぷり使った健康レシピを紹介してくれました。6月12日(月)に市川三郷町上野の三珠健康管理センターにて、滋養のある料理を、一緒に調理し、一緒にいただくという貴重な機会をいただきました。心と体が生きる力で満たされる活動です！

《食生活改善推進員さんの活動目的》

1. 健康と食生活について正しい知識と技術をもち、地域の実情をとらえながら地域住民の健康づくりのために効果的な活動を行う。
2. お互いに学び交流し、食生活改善推進員の質の向上に努める。

《活動目標》 1. バランスの取れた食事を推進 2. 食育事業を推進 3. 推進員として学び交流し、正しい知識を身につけ地域に伝達 4. ウォーキングや運動や体操等による健康づくりを推進

《今回の「桑の葉パウダー」をつかった健康メニュー》 ①【桑茶うどん】

- ◎材料（6人分）小麦粉1kg 桑の葉パウダー大さじ3 塩少々 水、様子を見ながら 打ち粉適宜
 麺つゆ（だし汁4カップ・醤油1カップ・みりん1カップ）薬味（長ネギ・生姜・青じそ）
- ◎作り方 ①小麦粉と桑の葉茶パウダーを混ぜ合わせる。 ②水を加え、よくこねる。
 ③塩少々を加えてさらによくこね、約1時間休ませる。 ④生地をのばし、織り込み、切る。
 ④鍋に湯を沸かし、麺をゆでる。沸騰したら水を入れ、再度沸騰したら冷水にあげる。
 ⑤麺つゆを作る。鰹だし汁に、醤油、みりんを加えて冷蔵庫で冷やす。⑥薬味を準備する。

小林千代子会長



健康メニュー ②【あんこ入り桑茶ゼリー】

- ◎材料（8人分）桑の葉パウダー小さじ3 粉寒天4g 水600ml 砂糖20g あんこ160g
- ◎作り方 ①鍋に水と粉寒天を入れ、火にかけ、沸騰したら2分ほどかき混ぜながら煮溶かす。
 ②砂糖を加えて溶かし、火を止める。③少しの水で溶いた桑パウダーを加え良く混ぜ合わせる。
 ④8等分したあんこを容器に入れ、これに③を流し入れ、冷ましてから冷蔵庫で冷やし固める。

健康メニュー ③【桑茶プリン】

- ◎材料（8人分）桑の葉パウダー20g 生クリーム600ml 牛乳200ml グラニュー糖80g
- ◎作り方 ①ボウルに卵黄とグラニュー糖を入れ泡立て器で白くなるまで混ぜる。（ハンドミキサー使用可）。
 ②小鍋に生クリーム・牛乳、桑パウダーを入れて火にかけ、沸騰直前まで温める。
 ③①に②を少しずつ加え、泡立て器で混ぜ合わせる。
 ④耐熱容器に流し込み、フライパンに2cmほど水を張り、ふたをして10分蒸してから、冷やす。



《勉強会やイベントへの参加》

食生活改善推進員協議会は、1年に7回会員研修会を実施し、減塩、糖尿病予防、食育、低栄養予防、災害時の食対応等、食に関する知識を学んでいます。学んだ内容を料理講習会やサロン等で地域住民に伝達しています。各地区健康診断時には減塩みそ汁やミルク餅の試食を通して、生活習慣病予防の普及啓発活動を行っています。町のイベントの子育て支援フェスティバル、健康と福祉の集いでは簡単手作りおやつ配布等、地域の健康づくりや食生活改善のために幅広い活動を行っています。



H29年度高等学校学園祭

市川高校 龍膽祭(りんどうさい)

市川高校(丹沢公彦校長)は、6月21・22日の2日間にわたり、テーマを「HAVE A CELEBRATION」と銘打って学園祭を開催しました。今年で64回目となる学園祭。初日は吹奏楽部と音楽部の発表を皮切りに、模擬店・クラス展示・書道パフォーマンス・各部委員会展示・クラス対抗合唱コンクールが行われました。美しいハーモニーと躍動感に満ちた合唱発表の魅力に、会場全体が引き込まれました。2日目には、龍膽の集い、クラス対抗ダンスコンテストが行われました。学園祭のメインの一つであるダンスコンテストでは、ストーリーや選曲、衣装、振り付けはもちろん、音響・照明に至るまで、演出に工夫をこらしたダンスを各クラスが披露しました。プログラムの丹沢校長の言葉通り、「先輩が残した良き歴史と伝統の精神に、新たな感性を加味して、継承・発展させた」行事でした。多くの保護者等が来校するなか、市川高校の100年を越える伝統と、文化の香りと、若い力に溢れた龍膽祭となりました。



身延高校 身高祭(しんこうさい)

「STAND UP! ~新たな挑戦~」



身延高校(若林毅文校長)は、6月28日~30日の3日間にわたって、第68回「身高祭」を開催しました。今年のテーマは、「STAND UP! ~新たな挑戦~」。初日は身延町総合文化会館ホールに多くの保護者を招いて、午前はオープニングセレモニー、シンボル旗の発表に続き、吹奏楽部と演劇部の発表、午後は1年生の合唱、2年生の創作ダンス、3年生の創作劇が行われました。創作劇のプロットは独創性に富み、演出にも工夫が凝らされ、さらに演者の台詞回しは滑舌が良く、表現力も豊かで、完成度の非常に高いものでした。2日目は会場を学校内に移しての、身高コレクション、Mスク、模擬店、クラス企画など、身延高校ならではの企画が行われ大盛況でした。3日目の体育部門では、二人三脚障害物リレーや長縄飛びなど全競技で、練習の成果と団結力が最大限に発揮されました。プログラムの若林校長の言葉にあるように、身高生は、この行事を通して「考え方の違いを乗り越えて協力して物事を進める力」=「21世紀の日本で求められる力」を培いました。友と切磋琢磨し、支え合い、あらん限りの力を尽くして一つひとつのステージを創造する身高生の姿が強く印象に残りました。「全部門で新たな試みを入れた」という今年の演目に果敢に挑戦し、誠実に真摯に取り組んで大きな実を結んだ「大成功の身高祭」となりました。

